

曾於醫師会立病院
曾於醫師会立有明病院

事業計画書（統合支援給付金）

鹿児島県知事 殿

統合支援給付金の支給を受けたいので、下記のとおり事業計画書を提出します。

また、下記4の「支給申請に関する誓約事項」について誓約します。

1. 申請者の情報

フリガナ		ソオイシカイリツビョウイン	申請年月日	R3	年	6	月	30	日
代表医療機関の名称	曾於医師会立病院		代表医療機関の住所・所在地	〒 899 - 8212 鹿児島県曾於市大隅町月野894					
フリガナ	ソウイシカダノホウジンソオイシカイイョウテツカシヤ		事務担当者	職・氏名	事務長 徳永卓郎				
開設者 <small>(代表者の職・氏名も記載)</small>	公益社団法人曾於医師会会長手塚善久			電話番号	099-482-4888				
				ファクシミリ	099-482-4894				
				電子メール	soo-hp-iimutyou@clock.ocn.ne.jp				

2. 統合関係病院等の情報

(1) 統合関係医療機関の情報（各医療機関の支給申請額算定シートから転記）

番号	代表	医療機関の名称	開設者氏名	統合関係医療機関の住所・所在地				
I	○	同上	同上	同上				
構想区域		統合後の状況	平成30年度病床機能報告における稼働病床数					
曾於医療圏		存続	総病床数	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等
			196	0	137	0	0	59
II		曾於医師会立有明病院	公益社団法人曾於医師会会長手塚善久	鹿児島県曾於市大隅町月野894				
構想区域		統合後の状況	平成30年度病床機能報告における稼働病床数					
曾於医療圏		廃止	総病床数	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等
			139	0	34	0	35	70
III								
構想区域		統合後の状況	平成30年度病床機能報告における稼働病床数					
			総病床数	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等
			0	0	0	0	0	0
IV								
構想区域		統合後の状況	平成30年度病床機能報告における稼働病床数					
			総病床数	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等
			0	0	0	0	0	0
V								
構想区域		統合後の状況	平成30年度病床機能報告における稼働病床数					
			総病床数	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等
			0	0	0	0	0	0
VI								
構想区域		統合後の状況	平成30年度病床機能報告における稼働病床数					
			総病床数	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等
			0	0	0	0	0	0

番号		医療機関の名称	開設者氏名		統合関係医療機関の住所・所在地		
VII							
構想区域	統合後の状況	平成30年度病床機能報告における稼働病床数					
		総病床数	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等
		0	0	0	0	0	0

番号		医療機関の名称	開設者氏名		統合関係医療機関の住所・所在地		
VIII							
構想区域	統合後の状況	平成30年度病床機能報告における稼働病床数					
		総病床数	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等
		0	0	0	0	0	0

番号		医療機関の名称	開設者氏名		統合関係医療機関の住所・所在地		
IX							
構想区域	統合後の状況	平成30年度病床機能報告における稼働病床数					
		総病床数	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等
		0	0	0	0	0	0

番号		医療機関の名称	開設者氏名		統合関係医療機関の住所・所在地		
X							
構想区域	統合後の状況	平成30年度病床機能報告における稼働病床数					
		総病床数	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等
		0	0	0	0	0	0

(2) 統合完了予定日

2021 年 10 月 1 日

(3) 重点支援区域における統合計画（プルダウンで選択）

非該当

※ 重点支援区域申請において「再編統合（機能連携等を含む）の対象となる医療機関」として位置付けた医療機関がすべて含まれている統合計画である場合は「該当」、そうでない場合は「非該当」を選択すること。

3. 支給申請額（総括表から転記）

支給申請額（千円）	154,584
-----------	---------

4. 支給申請に関する誓約事項

(1) 本申請に係る統合計画について、全ての統合関係医療機関が合意しています。

(2) 本給付金に関する報告や調査について、厚生労働省又は県から求められた場合には、全ての統合関係医療機関において、これに応じます。

(3) 本給付金の給付後、以下の①から③に該当した場合は、本給付金の全額又は一部を返還します。

- ① 統合計画に記載の内容について達成が見込めなくなった場合
- ② 統合関係医療機関が、給付金の支給を受けた日から令和8年3月31日までの間に対象3区分の許可病床数を増加させた場合（ただし、特定の疾患に罹患する者が多くなる等の事情により、厚生労働大臣及び都道府県知事が特に認める場合に許可病床数を増加させる場合はこの限りではない。）
- ③ 申請内容を偽り、その他不正の手段により本給付金の支給を受けたことが判明した場合

(4) 暴力団等の反社会的勢力又は反社会的勢力と関係を有しておりません。

(添付書類)

① 統合に関する計画書（以下の項目を必ず含むこととする）

- ・ 統合に関する合意の内容（合意日、統合後の医療体制、移転を伴う場合は立地等）
- ・ 統合に関するスケジュール
- ・ 統合に関する資金計画（廃止医療機関に残債がある場合はその処理計画）

② 病床稼働率算出の根拠となる平成30年度病床機能報告の写し又は令和元年度の病床機能報告の写し

■総括表

番号	統合関係医療機関の名称	統合後の状況	統合前の病床数					統合後の病床数					病床融通数				対象3区分からの転換数			支給対象病床数	対象3区分病床稼働率	一日平均実働病床数	支給申請額						
			計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟	計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期					計	回復期	介護医療院			
				0	137	0	0	59		0	0	137	0	0		59	0	0	0						0	0	0	0	0
I	曾於医師会立病院	存続	196	0	137	0	0	59	196	0	137	0	0	59	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	64.1%	103	0
II	曾於医師会立有明病院	廃止	139	0	34	0	35	70	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	69	82.8%	57	154,584		
III			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	0	0		
IV			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	0	0		
V			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	0	0		
VI			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	0	0		
VII			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	0	0		
VIII			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	0	0		
IX			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	0	0		
X			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	0	0		
小計			335	0	171	0	35	129	196	0	137	0	0	59	0	0	0	0	0	0	0	0	0	69				154,584	

支給対象病床数チェック	統合前の対象3区分の総病床数	統合後の対象3区分の総病床数	削減数	支給対象総病床数
○	206	137	69	69

病床融通数整合チェック	総病床融通数
○	0

1以上の病院廃止チェック	廃止 (有床診療所化、診療所化も含む)
○	1

10%削減チェック	統合関係医療機関の対象3区分の総病床数	対象3区分の病床減少数 (支給対象病床数)	減少率
○	206	69	33.5%

支給申請額(千円)
154,584

■支給申請額算定シート

番号	代表医療機関の名称	開設者氏名	代表医療機関の住所・所在地
I	曾於医師会立病院	公益社団法人曾於医師会会長手塚善久	鹿児島県曾於市大隅町月野894
	構想区域	統合後の状況	
	曾於医療圏	存続	

1	統合前の稼働病床数	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	合計	うち対象3区分(※3)の合計
	① 平成30年度病床機能報告		137			59	196	137
	② 令和2年4月1日時点(※1)		137			59	196	137
	③ 統合前病床数=②(※2)	0	137	0	0	59	196	137

- ※1 各機能ごとの数値については、地域医療構想調整会議にて確認されていること。
令和2年4月1日時点で病床数の変化があった場合は、変更前の病床数を記載すること。
平成30年度病床機能報告から令和2年4月1日までの間に、病床数の変更がない場合は、①と同じ値を記載すること。
- ※2 ①平成30年度病床機能報告時又は②令和2年4月1日時点の対象3区分合計のいずれか少ない方を基準とする。
- ※3 対象3区分=高度急性期、急性期、慢性期(以下同様)

2	統合後の許可病床数 (=統合後の稼働病床数)	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟	合計	うち対象3区分の合計
				137			59	196

3	他の統合関係医療機関との 病床融通数(※4)	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	対象3区分の合計

- ※4 他の統合関係医療機関から病床の融通を受けた場合はマイナス表記、病床を融通した場合はプラス表記とすること。

4	対象3区分から 回復期又は介護医療院へ 転換した病床数	回復期	介護医療院	合計
		0		0

5	減少病床数 (1の③-2)	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	合計	うち対象3区分の合計
		0	0	0	0	0	0	0

5.減少数	4.うち転換数	3.うち他院への 融通数	支給対象
0	0	0	0

6	統合前の許可病床数	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟	合計	うち対象3区分の合計
	① 平成30年度病床機能報告		162			34	196	162
	② 令和2年4月1日時点(※5)		162			34	196	162

- ※5 平成30年度病床機能報告から令和2年4月1日までの間に、病床数の変更がない場合は、①と同じ値を記載すること。

7	対象3区分の病棟の 年間在棟患者延べ数(人)	高度急性期	急性期	慢性期	合計
	① 平成30年度病床機能報告(※6)		37,917		37,917
	② 令和2年4月1日時点(※7)				0

- ※6 対象3区分の病棟に係る平成30年度病床機能報告の報告様式1(病棟票)の(48)欄の数値を計上すること。なお、平成30年度病床機能報告の報告様式1(病棟票)において、「過去1年間の間に病棟の再編・見直しあり」と報告した病棟の年間在棟患者延べ数については、以下の式により補正して計上すること。

○ 補正後の年間在棟患者延べ数 = 年間在棟患者延べ数(48)欄に記載された数値 ÷ 報告可能な対象期間(月単位) × 12

(注) 報告可能な対象期間(月単位)は、平成30年度病床機能報告で報告した月数とすること。

例) 報告可能な対象期間を「平成29年7月1日～平成30年12月末日」とした場合 ⇒ 報告可能な対象期間(月単位) = 6

- ※7 6の①と6の②の値が同じ場合は7の②の入力は不要。

8	<選択>	対象3区分の病床稼働率	一日平均実働病床数	適用
	A 平成30年度病床機能報告	64.1%	103	
	B 令和2年4月1日時点	0.0%	0	

9	統合前の対象3区分の稼働病床 数から一日平均実働病床数まで の減少分に係る支給額	単価(千円)	病床数	支給額(千円)
		1,596	0	0

10	一日平均実働病床数から統合後 の対象3区分の許可病床数まで の減少分に係る支給額	単価(千円)	病床数	支給額(千円)
		2,280	0	0

11	重点支援区域における統合計画	非該当	× 1.0
----	----------------	-----	-------

12	支給申請額(千円)	0
----	-----------	---

■支給申請額算定シート

番号	統合関係医療機関の名称	開設者氏名	統合関係医療機関の住所・所在地
II	曾於医師会立有明病院	公益社団法人曾於医師会会長手塚善久	鹿児島県曾於市大隅町月野894
	構想区域	統合後の状況	
	曾於医療圏	廃止	

1	統合前の稼働病床数	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	合計	うち対象3区分(※3)の合計
	① 平成30年度病床機能報告		34		35	70	139	69
	② 令和2年4月1日時点(※1)		34		35	70	139	69
	③ 統合前病床数=②(※2)	0	34	0	35	70	139	69

- ※1 各機能ごとの数値については、地域医療構想調整会議にて確認されていること。
令和2年4月1日時点で病床数の変化があった場合は、変更前の病床数を記載すること。
平成30年度病床機能報告から令和2年4月1日までの間に、病床数の変更がない場合は、①と同じ値を記載すること。
- ※2 ①平成30年度病床機能報告時又は②令和2年4月1日時点の対象3区分合計のいずれか少ない方を基準とする。
- ※3 対象3区分=高度急性期、急性期、慢性期(以下同様)

2	統合後の許可病床数 (=統合後の稼働病床数)	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟	合計	うち対象3区分の合計
				0		0	0	0

3	他の統合関係医療機関との 病床融通数(※4)	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	対象3区分の合計
						0

- ※4 他の統合関係医療機関から病床の融通を受けた場合はマイナス表記、病床を融通した場合はプラス表記とすること。

4	対象3区分から 回復期又は介護医療院へ 転換した病床数	回復期	介護医療院	合計
		0		0

5	減少病床数 (1の③-2)	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	合計	うち対象3区分の合計
		0	34	0	35	70	139	69

5.減少数	4.うち転換数	3.うち他院への 融通数	支給対象
69	0	0	69

6	統合前の許可病床数	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟	合計	うち対象3区分の合計
	① 平成30年度病床機能報告		34		35	70	139	69
	② 令和2年4月1日時点(※5)		34		35	70	139	69

- ※5 平成30年度病床機能報告から令和2年4月1日までの間に、病床数の変更がない場合は、①と同じ値を記載すること。

7	対象3区分の病棟の 年間在棟患者延べ数(人)	高度急性期	急性期	慢性期	合計
	① 平成30年度病床機能報告(※6)		9,886	10,981	20,867
	② 令和2年4月1日時点(※7)				0

- ※6 対象3区分の病棟に係る平成30年度病床機能報告の報告様式1(病棟票)の(48)欄の数値を計上すること。なお、平成30年度病床機能報告の報告様式1(病棟票)において、「過去1年間の間に病棟の再編・見直しあり」と報告した病棟の年間在棟患者延べ数については、以下の式により補正して計上すること。

○ 補正後の年間在棟患者延べ数 = 年間在棟患者延べ数(48)欄に記載された数値 ÷ 報告可能な対象期間(月単位) × 12

(注) 報告可能な対象期間(月単位)は、平成30年度病床機能報告で報告した月数とすること。

例) 報告可能な対象期間を「平成29年7月1日～平成30年12月末日」とした場合 ⇒ 報告可能な対象期間(月単位) = 6

- ※7 6の①と6の②の値が同じ場合は7の②の入力は不要。

8	<選択>	対象3区分の病床稼働率	一日平均実働病床数	適用
	A 平成30年度病床機能報告	82.8%	57	
	B 令和2年4月1日時点	0.0%	0	

9	統合前の対象3区分の稼働病床 数から一日平均実働病床数まで の減少分に係る支給額	単価(千円)	病床数	支給額(千円)
		2,052	12	24,624

10	一日平均実働病床数から統合後 の対象3区分の許可病床数まで の減少分に係る支給額	単価(千円)	病床数	支給額(千円)
		2,280	57	129,960

11	重点支援区域における統合計画	非該当	× 1.0
----	----------------	-----	-------

12	支給申請額(千円)	154,584
----	-----------	---------

病院再編統合にかかると業計画書

作成日：令和3年6月30日

曾於医師会立病院
曾於医師会立有明病院

目次

I. 本事業にかかる統合再編病院等の概要	3
1. 曾於医師会立病院	3
2. 曾於医師会立有明病院	4
II. 構想区域における現状と課題	4
III. 統合計画の概要	5
IV. 具体的計画について	6
1. 廃止病院における既存債務の処理方法	6
2. 統合完了予定年月日	6

I. 本事業にかかる統合再編医療機関の概要

曾於医師会が運営している曾於市に所在する曾於医師会立病院（一般病床 196 床、感染症病床 2 床、内 34 床休床）と志布志市に所在する曾於医師会立有明病院（一般病床 34 床、療養病床 105 床、内 70 床休床）を統合し曾於医師会立有明病院は廃院とする。

1. 曾於医師会立病院

急性期病床 162 床、感染症病床 2 床、休棟病床 34 床。外科、整形外科を中心に 2 次救急医療機関として急性期医療を担っている。

休棟中の病棟に新型コロナウイルス感染症患者の入院受入も行っている。

指定関係

地域医療支援病院・災害拠点病院・鹿児島県がん診療指定病院・鹿児島県 DMAT 指定病院・へき地診療拠点病院 3

医療機関名称	曾於医師会立病院
開設主体	公益社団法人曾於医師会
所在地	鹿児島県曾於市大隅町月野 894
構想区域	曾於保健医療圏
許可病床数	総許可病床数 198 床 急性期 162 床 感染症病床 2 床 休棟 34 床
稼働病床数	総稼働病床数 137 床 急性期 137 床 休棟等 59 床
1 日あたり患者数 (稼働率)	入院患者数 103 人/日 (64.1%) 外来患者数 89.8 人/日
標榜診療科	内科、外科、整形外科、麻酔科、脳神経外科、小児科、放射線科 泌尿器科、婦人科、眼科、リハビリテーション科、皮膚科
職員数	185.5 人
(医 師)	8 人
(看護職員)	90.9 人
(専 門 職)	30.6 人
(事務職員)	20.9 人
(看護補助者)	14.5 人
(その他職員)	20.6 人

2. 曾於医師会立有明病院

急性期・慢性期病床の他、外来機能も廃止する。

医療機関名称	曾於医師会立有明病院
開設主体	公益社団法人曾於医師会
所在地	鹿児島県志布志市有明町野井倉 8288-1
構想区域	曾於保健医療圏
許可病床数	総許可病床数 139 床 急性期 34 床、慢性期 35 床 休棟 70 床
稼働病床数	総稼働病床数 69 床 急性期 34 床、慢性期 35 床 休棟等 70 床
1 日あたり患者数 (稼働率)	入院患者数 57 人/日 (82.8%) 外来患者数 21 人/日
標榜診療科	内科、外科、産科、婦人科
職員数	71.1 人
(医 師)	4.1 人
(看護職員)	35.5 人
(専 門 職)	7.8 人
(事務職員)	6 人
(看護補助者)	13.8 人
(その他職員)	3.9 人

II. 構想区域における現状と課題

曾於医療圏の医療従事者の数は、医師数人口 10 万人当たり全国 233.6 人、県 247.8 人に対して曾於医療圏 104.4 人、薬剤師数全国 126.8 人、鹿児島県 106.4 人に対して曾於医療圏 80.1 人、看護師数全国 604.1 人、鹿児島県 837.1 人に対して曾於医療圏 352.6 人と全国及び県平均を下回っており、医師数、看護師数は県内で最も低い。

在宅医療は平成 28 年 11 月の地域医療構想資料の SCR でみた曾於圏域の在宅医療体制より、訪問診療や看取りの件数が全国を 100 としたときに訪問診療 68.6、看取り 50.9 と、全国を下回っており、今後増加が見込まれる在宅医療の需要に対応するためには、訪問診療や訪問看護等の在宅医療提供体制を充実させることが求められる。

又、圏域内の新型コロナウイルス感染症の入院受入病床数は、曾於医師会立病院 3 床と他病院 2 床の計 5 床で、曾於圏域における令和 3 年 4 月以降の新型コロナウイルス感染者の療養場所は、曾於圏域での療養が 17%にとどまっている状況であり、受入病床の増加が課題である。

Ⅲ. 統合計画の概要

曾於医師会が運営している曾於医師会立病院と曾於医師会立有明病院の統合により医療資源の集約を図る。

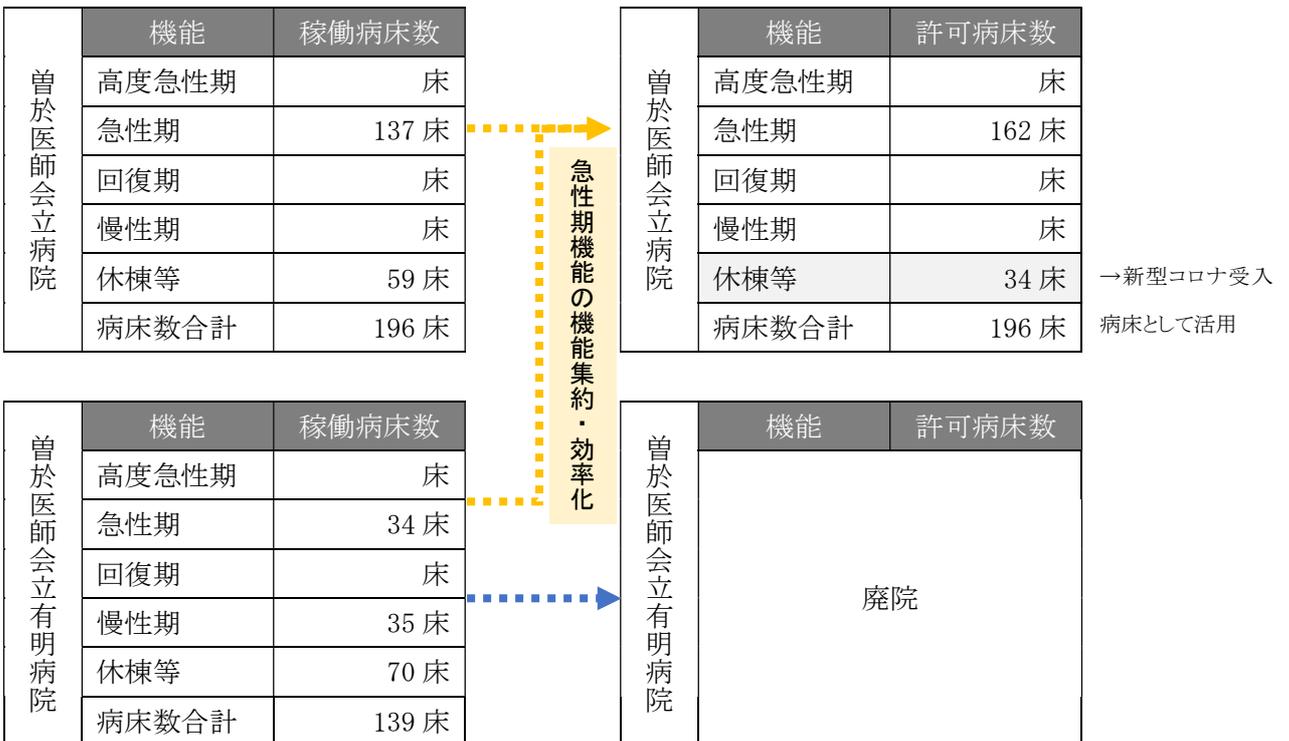
有明病院廃止後の患者の受入先は、有明病院周辺には複数の医療機関があり、地域住民への外来診療提供体制については問題ない。また、通院中の患者については患者や家族の希望に応じて地域の診療所等に紹介を行っていく予定である。産科の外来受診者は年間で1桁であり、婦人科については曾於医師会立病院に婦人科があることから、産科、婦人科に関する医療提供体制に問題はない。

入院患者の急性期については、曾於医師会立病院等の急性期病床だけでなく、当該地域の地域包括ケア病棟の活用、慢性期については医療療養病床に限らず、介護医療院や曾於医師会立介護老人保健施設ありあけ苑等の施設を活用し、在宅での受入れがスムーズに行えるように訪問看護の充実も図る計画である。

このほか、医師会立病院敷地内に医師会立の訪問看護ステーションを併設し、訪問看護、訪問リハビリを行い、ステーションと連携しながら必要に応じて訪問診療を行うこととしている。

又、新型コロナウイルス感染者の受入病床の増加を図る必要があり、曾於医師会立病院の休棟中の病床については、感染状況により病床数増加の可能性もあることから現段階で廃止にはできない。

今回の両病院の統合により曾於保健医療圏の課題である在宅医療提供体制の充実や感染症対応の充実を図ることにより、曾於圏域の地域医療構想に資するものと考えられる。



IV.具体的計画について

1. 廃止病院における既存債務の処理方法

銀行借入金は返済完了。

病院建物の処理等については現段階では未定である。

2. 統合完了予定年月日

曾於医師会立有明病院は令和3年9月30日をもって閉院とし、10月1日に職員の異動を行う。計画中の訪問看護ステーションの開所の時期については未定である。

統合完了予定年月日	令和3年10月1日
-----------	-----------

<ID:14630234/病棟コード:190620001/貴院名:曾於医師会立病院/病棟名:1階病棟/病棟No.1>

平成30年度病床機能報告 報告様式1【病院】

③ 病棟票

ID(報告マニュアル送付状に記載の8桁コード)	14630234	貴院名	曾於医師会立病院
-------------------------	----------	-----	----------

※「ID」及び「貴院名」は、「H30様式1病院基本票」シートから参照しています。

※病棟コードは、電子レセプトにより診療報酬請求を行っている病院であって、6月診療分であって7月審査分の電子の入院レセプトに一般病床または療養病床の入院に係る「病棟コード」を記録頂いた場合、電子レセプトに記録頂いた病棟コード(「1906****」の9桁コード)をご記入ください。
 上記以外の医療機関・病棟は、以下の病床機能報告制度ホームページに掲載されている「病床機能報告に関する電子レセプト作成の手引き」をはじめとする通知及びマスターファイル等ご参照のうえ、病棟ごとに報告様式1、2を作成する際に共通となる病棟コード(「1906****」の9桁コード)を選定しご記入ください(ただし、電子レセプトに記録していない場合であって休棟中等の場合、病棟コードの5桁目を「5」とすることは可とします)。
www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000055891.html
 (厚生労働省ホームページ>政策について>分野別の政策一覧>健康・医療>医療>病床機能報告)

レセプトに印字又は表示した名称	病棟コード※	病棟名
急性期機能病棟01	1906 20001	1階病棟

※「病棟コード(下5桁)」及び「病棟名」は、「H30様式1病院基本票」シートから参照しています。

1. 医療機能【医療機能の選択にあたっての考え方については、「平成30年度病床機能報告マニュアル①」を参照してください。】

① 2018(平成30)年7月1日時点の機能

1. 高度急性期機能	2. 急性期機能	3. 回復期機能	4. 慢性期機能	(1)	2
5. 休棟中(今後再開する予定)	6. 休棟中(今後廃止する予定)				

② 2025年7月1日時点の機能

1. 高度急性期機能	2. 急性期機能	3. 回復期機能	4. 慢性期機能	(2)	2
5. 休棟予定	6. 廃止予定	7. 介護保険施設等へ移行予定			

③ 上記②で「7. 介護保険施設等へ移行予定」を選択した場合、2025年7月1日時点の移行予定先について選択してください。

1. 介護医療院	2. 介護老人保健施設	3. 介護老人福祉施設	4. 1~3以外の介護サービス	(3)	
----------	-------------	-------------	-----------------	-----	--

⚠ 上記項目1において「2025年7月1日時点の機能の実現」に向けて、それ以前に変更予定がある場合は、下のチェックボックスにチェックを入れて、変更後の機能、その変更予定年月を入力してください。(新規)

2025年7月1日迄に変更予定あり ⇒ 変更後の機能 ⇒ (4) 変更予定年月 西暦 年 月

2. 許可病床数【平成30年7月1日時点】・稼働病床数【平成29年7月1日~平成30年6月30日】

※一般病床、療養病床についてのみ数えて、精神病床、結核病床、感染症病床は除いてご記入ください。
 ※1病棟当たりの病床数については、原則として60床以下が標準とされています。病床数の標準を上回っている場合については、①2以上の病棟に分割した場合には、片方について1病棟として成り立たない、②建物構造上の事情で標準を満たすことが困難である、③近く建物の改築がなされることが確実である等、やむを得ない理由がある場合に限り、認められます。

	許可病床数	稼働病床数 《自動計算により算出》	過去1年間に一度も入院患者を収容しなかった病床数 ※	2025年7月1日時点の予定病床数(新規)
① 一般病床 (5)	50 床	50 床	0 床	50 床
上記①のうち、医療法上の経過措置に該当する病床(平成13年3月1日時点で既に開設許可を受けている一般病床であって、6.3㎡/床(1人部屋)・4.3㎡/床(その他)となっている病床数)	0 床			
② 療養病床 (7)	0 床	0 床	0 床	0 床
上記②のうち、医療療養病床 (8)	0 床	0 床	0 床	0 床
上記②のうち、介護療養病床《自動計算により算出》 (9)	0 床	0 床	0 床	0 床

1病棟当たりの病床数が標準の60床以下を上回っていることについて、やむを得ない理由があり、認められている場合には、右の項目にチェックを入れてください。 (10)

※ 過去1年間に一度も入院患者を収容しなかった病床数は、許可病床数から、過去1年間に最も多く患者を収容した時点で使用した病床数を差し引いて算出してください。

上記において「稼働病床数」の合計が0床である場合には、その理由をご記入ください。【自由記入欄】(条件付必須)

<<ID:14630234/病棟コード:190620001/貴院名:曾於医師会立病院/病棟名:1階病棟/病棟No.1>>

6. 入院患者数の状況【平成29年7月1日～平成30年6月30日の1年間】

※一般病床、療養病床に入院するショートステイ利用者、正常な妊産婦、院内で出生した正常な新生児、生母の入院に伴って入院した健康な新生児又は乳児、公費負担医療、労災保険制度や労働福祉事業としての医療、自賠責、治験、人間ドック、その他の自由診療等での入院者、介護療養病床への入院患者についても、新規入棟患者数、在棟患者延べ数、退棟患者数に数えてください。
 ※入院後の1回目の入棟・退棟のみを数え、同一病棟での再入棟・再退棟は数えません。また、DPC対象病棟間、同一の入院料を算定する病棟間の転棟であっても、新規入棟患者・退棟患者として数えてください。
 ※1入院1単位と考え、入院期間が通算される再入院患者等についても新規入棟患者・退棟患者として数えてください。

① 新規入棟患者数【平成29年7月1日～平成30年6月30日の1年間】《自動計算により算出》	(44)	420	人
上記①のうち、予定入院の患者・院内の他病棟からの転棟患者	(45)	187	人
上記①のうち、予定外の救急医療入院以外の入院患者	(46)	233	人
上記①のうち、予定外の救急医療入院の患者	(47)	0	人
② 在棟患者延べ数【平成29年7月1日～平成30年6月30日の1年間】	(48)	15,151	人
③ 退棟患者数【平成29年7月1日～平成30年6月30日の1年間】	(49)	423	人

※(44)～(49)の記入欄のうち、ブランクのものはゼロとみなします。

7. 入棟前の場所・退棟先の場所別の入院患者の状況

※「新規入棟患者数」及び「退棟患者数」の考え方は、上記の「6. 入院患者数の状況」と同様になります。
 ※下記①②は、新規で必須項目となりました。

① 新規入棟患者数【平成29年7月1日～平成30年6月30日の1年間】《自動計算により算出》	(50)	420	人	
入棟前の場所	上記①のうち、院内の他病棟からの転棟	(51)	26	人
	上記①のうち、家庭からの入院	(52)	333	人
	上記①のうち、他の病院、診療所からの転院	(53)	25	人
	上記①のうち、介護施設・福祉施設からの入院	(54)	36	人
	上記①のうち、介護医療院からの入院（新規）	(55)	0	人
	上記①のうち、院内の出生	(56)	0	人
	上記①のうち、その他	(57)	0	人
② 退棟患者数【平成29年7月1日～平成30年6月30日の1年間】《自動計算により算出》	(58)	423	人	
退棟先の場所	上記②のうち、院内の他病棟へ転棟	(59)	42	人
	上記②のうち、家庭へ退院	(60)	294	人
	上記②のうち、他の病院、診療所へ転院	(61)	52	人
	上記②のうち、介護老人保健施設に入所	(62)	9	人
	上記②のうち、介護老人福祉施設に入所	(63)	5	人
	上記②のうち、介護医療院に入所（新規）	(64)	0	人
	上記②のうち、社会福祉施設・有料老人ホーム等に入所	(65)	18	人
	上記②のうち、終了（死亡退院等）	(66)	1	人
上記②のうち、その他	(67)	2	人	

※(50)～(67)の記入欄のうち、ブランクのものはゼロとみなします。

<ID:14630234/病棟コード:190620003/貴院名:曾於医師会立病院/病棟名:3階病棟/病棟No.3>

平成30年度病床機能報告 報告様式1【病院】

③ 病棟編

ID(報告マニュアル送付状に記載の8桁コード)	14630234	貴院名	曾於医師会立病院
-------------------------	----------	-----	----------

※「ID」及び「貴院名」は、「H30様式1病院基本票」シートから参照しています。

病棟情報

※病棟コードは、電子レセプトにより診療報酬請求を行っている病院であって、6月診療分であって7月審査分の電子の入院レセプトに一般病床または療養病床の入院に係る「病棟コード」を記録頂いた場合、電子レセプトに記録頂いた病棟コード(「1906****」の9桁コード)をご記入ください。
 上記以外の医療機関(病棟は、以下の病床機能報告制度ホームページに掲載されている「病床機能報告に関する電子レセプト作成の手引き」をはじめとする通知及びマスターファイル等ご参照のうえ、病棟ごとに報告様式1・2を作成する際に共通となる病棟コード(「1906****」の9桁コード)を選定しご記入ください(ただし、電子レセプトに記録していない場合であって休棟中等の場合、病棟コードの5桁目を「15」とすることは可とします)。
www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000055891.html
 (厚生労働省ホームページ>政策について>分野別の政策一覧>健康・医療>医療>病床機能報告)

レセプトに印字又は表示した名称	病棟コード※	病棟名
急性期機能病棟03	1906 20003	3階病棟

※「病棟コード(下5桁)」及び「病棟名」は、「H30様式1病院基本票」シートから参照しています。

1. 医療機能【医療機能の選択にあたっての考え方については、「平成30年度病床機能報告マニュアル①」を参照してください。】

① 2018(平成30)年7月1日時点の機能

1. 高度急性期機能	2. 急性期機能	3. 回復期機能	4. 慢性期機能	(1)	2
5. 休棟中(今後再開する予定)	6. 休棟中(今後廃止する予定)				

② 2025年7月1日時点の機能

1. 高度急性期機能	2. 急性期機能	3. 回復期機能	4. 慢性期機能	(2)	2
5. 休棟予定	6. 廃止予定	7. 介護保険施設等へ移行予定			

③ 上記②で「7. 介護保険施設等へ移行予定」を選択した場合、2025年7月1日時点の移行予定先について選択してください。

1. 介護医療院	2. 介護老人保健施設	3. 介護老人福祉施設	4. 1~3以外の介護サービス	(3)	
----------	-------------	-------------	-----------------	-----	--



上記項目1において「2025年7月1日時点の機能の実現」に向けて、それ以前に変更予定がある場合は、下のチェックボックスにチェックを入れて、変更後の機能、その変更予定年月を入力してください。(新規)

2025年7月1日迄に変更予定あり	⇒	変更後の機能 ⇒ (4)	変更予定年月	西暦	年	月
-------------------	---	--------------	--------	----	---	---

2. 許可病床数【平成30年7月1日時点】・稼働病床数【平成29年7月1日~平成30年6月30日】

※一般病床、療養病床についてのみ数えて、精神病床、結核病床、感染症病床は除いてご記入ください。
 ※1病棟当たりの病床数については、原則として60床以下が標準とされています。病床数の標準を上回っている場合については、①②以上の病棟に分割した場合には、片方について1病棟として成り立たない、②建物構造上の事情で標準を満たすことが困難である、③近く建物の改築がなされることが確実である等、やむを得ない理由がある場合に限り、認められます。

項目	許可病床数	稼働病床数 (自動計算により算出)	過去1年間に一度も入院患者を収容しなかった病床数※	2025年7月1日時点の予定病床数(新規)
① 一般病床 (5)	53 床	39 床	14 床	53 床
上記①のうち、医療法上の経過措置に該当する病床(平成13年3月1日時点で既に開設許可を受けている一般病床であって、6.3㎡/床(1人部屋)・4.3㎡/床(その他)となっている病床数) (6)	0 床			
② 療養病床 (7)	0 床	0 床	0 床	0 床
上記②のうち、医療療養病床 (8)	0 床	0 床	0 床	0 床
上記②のうち、介護療養病床《自動計算により算出》 (9)	0 床	0 床	0 床	0 床
1病棟当たりの病床数が標準の60床以下を上回っていることについて、やむを得ない理由があり、認められている場合には、右の項目にチェックを入れてください。 (10)				

※過去1年間に一度も入院患者を収容しなかった病床数は、許可病床数から、過去1年間に最も多く患者を収容した時点で使用した病床数を差し引いて算出してください。

上記において「稼働病床数」の合計が0床である場合には、その理由をご記入ください。【自由記入欄】(条件付必須)

<<ID:14630234/病棟コード:190620003/貴院名:曾於医師会立病院/病棟名:3階病棟/病棟No.3>>

6. 入院患者数の状況【平成29年7月1日～平成30年6月30日の1年間】

※一般病床・療養病床に入院するショートステイ利用者、正常な妊産婦、院内で出生した正常な新生児、生母の入院に伴って入院した健康な新生児又は乳児、公費負担医療、労災保険制度や労働福祉事業としての医療、自賠責、治験、人間ドック、その他の自由診療等での入院者、介護療養病床への入院患者についても、新規入棟患者数・在棟患者延べ数・退棟患者数に数えてください。

※入院後の1回目の入棟・退棟のみを数え、同一病棟での再入棟・再退棟は数えません。また、DPC対象病棟間、同一の入院料を算定する病棟間の転棟であっても、新規入棟患者・退棟患者として数えてください。

※1入院1単位と考え、入院期間が通算される再入院患者等についても新規入棟患者・退棟患者として数えてください。

① 新規入棟患者数【平成29年7月1日～平成30年6月30日の1年間】《自動計算により算出》 (44)	926	人
上記①のうち、予定入院の患者・院内の他病棟からの転棟患者 (45)	414 /	人
上記①のうち、予定外の救急医療入院以外の入院患者 (46)	489 /	人
上記①のうち、予定外の救急医療入院の患者 (47)	23 /	人
② 在棟患者延べ数【平成29年7月1日～平成30年6月30日の1年間】 (48)	9,274 /	人
③ 退棟患者数【平成29年7月1日～平成30年6月30日の1年間】 (49)	926 /	人

※(44)～(49)の記入欄のうち、空白のものはゼロとみなします。

7. 入棟前の場所・退棟先の場所別の入院患者の状況

※「新規入棟患者数」及び「退棟患者数」の考え方は、上記の「6. 入院患者数の状況」と同様になります。

※下記①②は、新規で必須項目となりました。

① 新規入棟患者数【平成29年7月1日～平成30年6月30日の1年間】《自動計算により算出》 (50)	926	人	
入棟前の場所	上記①のうち、院内の他病棟からの転棟 (51)	18 /	人
	上記①のうち、家庭からの入院 (52)	806 /	人
	上記①のうち、他の病院、診療所からの転院 (53)	31 /	人
	上記①のうち、介護施設・福祉施設からの入院 (54)	71 /	人
	上記①のうち、介護医療院からの入院（新規） (55)	0 /	人
	上記①のうち、院内の出生 (56)	0 /	人
	上記①のうち、その他 (57)	0 /	人
② 退棟患者数【平成29年7月1日～平成30年6月30日の1年間】《自動計算により算出》 (58)	927 926	人	
退棟先の場所	上記②のうち、院内の他病棟へ転棟 (59)	21 /	人
	上記②のうち、家庭へ退院 (60)	736 /	人
	上記②のうち、他の病院、診療所へ転院 (61)	64 /	人
	上記②のうち、介護老人保健施設に入所 (62)	10 /	人
	上記②のうち、介護老人福祉施設に入所 (63)	23 /	人
	上記②のうち、介護医療院に入所（新規） (64)	0 /	人
	上記②のうち、社会福祉施設・有料老人ホーム等に入所 (65)	23 /	人
	上記②のうち、終了（死亡退院等） (66)	49 /	人
上記②のうち、その他 (67)	0 /	人	

※(50)～(67)の記入欄のうち、空白のものはゼロとみなします。

<<ID:14630234/病棟コード:190620004/貴院名:曾於医師会立病院/病棟名:4階病棟/病棟No.4>>

平成30年度病床機能報告 報告様式1【病院】

③ 病棟票

ID(報告マニュアル送付状に記載の8桁コード)	14630234	貴院名	曾於医師会立病院
-------------------------	----------	-----	----------

※「ID」及び「貴院名」は、「H30様式1病院基本票」シートから参照しています。

病棟情報	※病棟コードは、電子レセプトにより診療報酬請求を行っている病院であって、6月診療分であって7月審査分の電子の入院レセプトに一般病床または療養病床の入院に係る「病棟コード」を記録頂いた場合、電子レセプトに記録頂いた病棟コード(「1906****」の9桁コード)をご記入ください。 上記以外の医療機関・病棟は、以下の病床機能報告制度ホームページに掲載されている「病床機能報告に関する電子レセプト作成の手引き」をはじめとする通知及びマスターファイル等ご参照のうえ、病棟ごとに報告様式1-2を作成する際に共通となる病棟コード(「1906****」の9桁コード)を選定しご記入ください。(ただし、電子レセプトに記録していない場合であって休棟中等の場合、病棟コードの5桁目を「5」とすることは可とします)。 www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000055891.html (厚生労働省ホームページ>政策について>分野別の政策一覧>健康・医療>医療>病床機能報告)		
	レセプトに印字又は表示した名称	病棟コード※	病棟名
急性期機能病棟04	1906 20004	4階病棟	

※「病棟コード(下5桁)」及び「病棟名」は、「H30様式1病院基本票」シートから参照しています。

1. 医療機能【医療機能の選択にあたっての考え方については、「平成30年度病床機能報告マニュアル①」を参照してください。】

① 2018(平成30)年7月1日時点の機能

1. 高度急性期機能 (2) 急性期機能 3. 回復期機能 4. 慢性期機能 (1) 2
5. 休棟中(今後再開する予定) 6. 休棟中(今後廃止する予定)

② 2025年7月1日時点の機能

1. 高度急性期機能 (2) 急性期機能 3. 回復期機能 4. 慢性期機能 (2) 2
5. 休棟予定 6. 廃止予定 7. 介護保険施設等へ移行予定

③上記②で「7. 介護保険施設等へ移行予定」を選択した場合、2025年7月1日時点の移行予定先について選択してください。

1. 介護医療院 2. 介護老人保健施設 3. 介護老人福祉施設 4. 1~3以外の介護サービス (3)

⚠ 上記項目1において「2025年7月1日時点の機能の実現」に向けて、それ以前に変更予定がある場合は、下のチェックボックスにチェックを入れて、変更後の機能、その変更予定年月を入力してください。(新規)

2025年7月1日迄に変更予定あり ⇒ 変更後の機能 ⇒ (4) 変更予定年月 西暦 年 月

2. 許可病床数【平成30年7月1日時点】・稼働病床数【平成29年7月1日~平成30年6月30日】

※一般病床、療養病床についてのみ数えて、精神病床、結核病床、感染症病床は除いてご記入ください。
 ※1病棟当たりの病床数については、原則として60床以下が標準とされています。病床数を上回っている場合については、①2以上の病棟に分割した場合には、片方について1病棟として成り立たない、②建物構造上の事情で標準を満たすことが困難である、③近く建物の改築がなされることなどが確実である等、やむを得ない理由がある場合に限り、認められます。

項目	許可病床数	稼働病床数 《自動計算により算出》	過去1年間に一度も入院患者を収容しなかった病床数※		2025年7月1日時点の予定病床数(新規)
			床	床	
① 一般病床 (5)	59 床	48 床	11 床	59 床	
上記①のうち、医療法上の経過措置に該当する病床(平成13年3月1日時点で既に開設許可を受けている一般病床であって、6.3㎡/床(1人部屋)・4.3㎡/床(その他)となっている病床数) (6)	0 床				
② 療養病床 (7)	0 床	0 床	0 床	0 床	
上記②のうち、医療療養病床 (8)	0 床	0 床	0 床	0 床	
上記②のうち、介護療養病床《自動計算により算出》 (9)	0 床	0 床	0 床	0 床	

1病棟当たりの病床数が標準の60床以下を上回っていることについて、やむを得ない理由があり、認められている場合には、右の項目にチェックを入れてください。 (10)

※ 過去1年間に一度も入院患者を収容しなかった病床数は、許可病床数から、過去1年間に最も多く患者を収容した時点で使用した病床数を差し引いて算出してください。

上記において「稼働病床数」の合計が0床である場合には、その理由をご記入ください。【自由記入欄】(条件付必須)

<<ID:14630234/病棟コード:190620004/貴院名:曾於医師会立病院/病棟名:4階病棟/病棟No.4>>

6. 入院患者数の状況【平成29年7月1日～平成30年6月30日の1年間】
 ※一般病床・療養病床に入院するショートステイ利用者、正常な妊産婦、院内で出生した正常な新生児、生母の入院に伴って入院した健康な新生児又は乳児、公費負担医療、労災保険制度や労働福祉事業としての医療、自賠責、治験、人間ドック、その他の自由診療等での入院者、介護療養病床への入院患者についても、新規入棟患者数・在棟患者延べ数・退棟患者数に数えてください。
 ※入院後の1回目の入棟・退棟のみを数え、同一病棟での再入棟・再退棟は数えませんが、DPC対象病棟間、同一の入院料を算定する病棟間の転棟であっても、新規入棟患者・退棟患者として数えてください。
 ※1入院1単位と考え、入院期間が通算される再入院患者等についても新規入棟患者・退棟患者として数えてください。

① 新規入棟患者数【平成29年7月1日～平成30年6月30日の1年間】《自動計算により算出》	(44)	533	入
上記①のうち、予定入院の患者・院内の他病棟からの転棟患者	(45)	145	入
上記①のうち、予定外の救急医療入院以外の入院患者	(46)	380	入
上記①のうち、予定外の救急医療入院の患者	(47)	8	入
② 在棟患者延べ数【平成29年7月1日～平成30年6月30日の1年間】	(48)	13,492	入
③ 退棟患者数【平成29年7月1日～平成30年6月30日の1年間】	(49)	541	入

※(44)～(49)の記入欄のうち、空白のものはゼロとみなします。

7. 入棟前の場所・退棟先の場所別の入院患者の状況
 ※「新規入棟患者数」及び「退棟患者数」の考え方は、上記の「6. 入院患者数の状況」と同様になります。
 ※下記①②は、新規で必須項目となりました。

① 新規入棟患者数【平成29年7月1日～平成30年6月30日の1年間】《自動計算により算出》	(50)	533	入	
入棟前の場所	上記①のうち、院内の他病棟からの転棟	(51)	51	入
	上記①のうち、家庭からの入院	(52)	392	入
	上記①のうち、他の病院、診療所からの転院	(53)	50	入
	上記①のうち、介護施設・福祉施設からの入院	(54)	40	入
	上記①のうち、介護医療院からの入院（新規）	(55)	0	入
	上記①のうち、院内の出生	(56)	0	入
	上記①のうち、その他	(57)	0	入
② 退棟患者数【平成29年7月1日～平成30年6月30日の1年間】《自動計算により算出》	(58)	541	入	
退棟先の場所	上記②のうち、院内の他病棟へ転棟	(59)	37	入
	上記②のうち、家庭へ退院	(60)	384	入
	上記②のうち、他の病院、診療所へ転院	(61)	68	入
	上記②のうち、介護老人保健施設に入所	(62)	9	入
	上記②のうち、介護老人福祉施設に入所	(63)	16	入
	上記②のうち、介護医療院に入所（新規）	(64)	0	入
	上記②のうち、社会福祉施設・有料老人ホーム等に入所	(65)	15	入
	上記②のうち、終了（死亡退院等）	(66)	11	入
上記②のうち、その他	(67)	1	入	

※(50)～(67)の記入欄のうち、空白のものはゼロとみなします。